

我が国の航空物流の現状

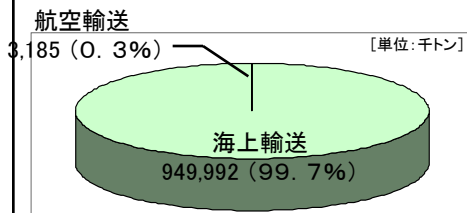
○国際分業の進展等による経済のグローバル化に伴い、部品の調達から生産・販売までの全体最適化を目指すサプライチェーンマネジメントを基本とする経営戦略を進める荷主企業にとって、国際物流は極めて重要な位置付けとなっており、最近の国際経済の急激な変化やスピード化の加速により、他の輸送機関より速達性に優れる航空による貨物輸送の重要性がますます高まっている。

これを背景に

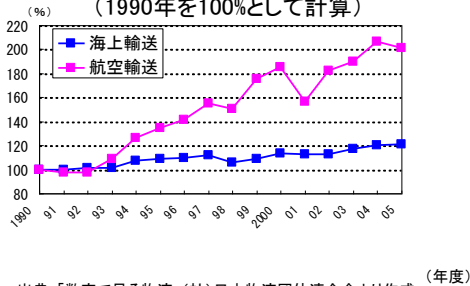
○我が国の国際貨物輸送全体が緩やかな上昇傾向にある中、国際航空貨物輸送は、エレクトロニクス・IT等高付加価値製品を中心に、重量・金額ともに約10年間で約2倍と急激に増大しており、全体に占める割合も、重量ベースではわずか0.3%程度だが、金額ベースでは約30%を占めるほど急速に拡大。

<重量ベース>

海上輸送と航空輸送の分担率
(2005年度)



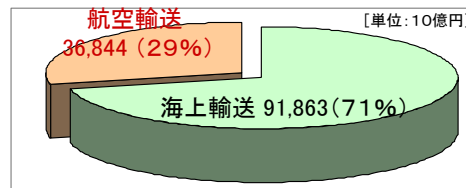
海上輸送と航空輸送の輸送量伸び率
(1990年を100%として計算)



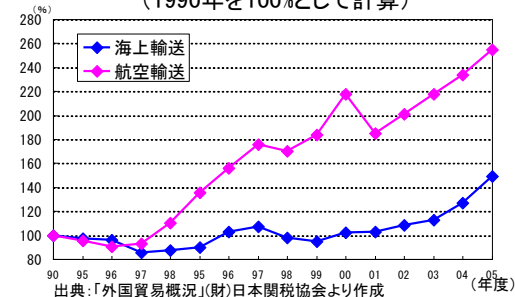
出典:「数字で見る物流」(社)日本物流団体連合会より作成

<金額ベース>

海上輸送と航空輸送の分担率
(2005年度)



海上輸送と航空輸送の輸送量伸び率
(1990年を100%として計算)



出典:「外国貿易概況」(財)日本関税協会より作成

したがって

我が国の航空物流の発展に戦略的に取り組むことにより、近年の航空物流を巡るめまぐるしい環境変化に、的確かつ迅速に対応していく。

航空物流システムの戦略的構築

「航空物流の課題」 (平成19年4月)

関係者ヒアリング・基礎資料
に基づく基本認識
(問題意識・環境認識)

「我が国の航空物流が
目指す基本的方向」

他輸送モード・諸外国より
優れた航空物流サービスの
提供による、我が国の国際競争力の強化
ならびに利用者利便の向上

「重点的に推進する課題」

【課題①】
成田・羽田の一体的運用による、
首都圏における24時間貨物ハブ空港機能の実現

【課題②】
完全24時間運用を活かし国際貨物ハブ空港を目指した、
関空の物流機能強化

【課題③】
国内・国際間の継越、総合保税地域等の物流利便に
優れる中部の利用促進

【課題④】
地方空港を活用した多様な航空物流ネットワークの構築

【課題⑤】
多様化かつ高度化するニーズに対応した航空物流の
新たな展開など

○航空物流施策を総合的・一体的・戦略的に推進し、我が国の航空物流サービスの国際競争力の向上等を図るため、平成19年7月に航空物流室を新設。「航空物流の課題」(平成19年4月)の問題意識を継承しつつ、環境変化にあわせてそれを深化させ、各種施策および環境整備に取り組む。

基本認識

《問題意識》

我が国(企業)国際競争力の維持・向上

我が国航空物流産業の振興

空港インフラの有効活用

利便性・効率性の向上

《現在の取組状況》

- 業界団体・荷主等へのヒアリングによるニーズ汲み取り
- 成田・羽田の有機的連携に資する調査
- 航空物流の業務プロセスへのICタグ活用に向けた調査
- 周辺アジア諸国の空港の物流機能に関する調査
- AGW特区構想・日本版AEO制度の推進

目指す方向

国際的に遜色の無い、我が国「航空物流システム」の戦略的構築を目指し、
システム全体の効率化、競争力・利便性の向上実現を図る。

空港・キャリア・フォワーダー・荷主・行政機関を個別ではなく、航空貨物輸送を核とした物流サービスを実行する、
一体的・有機的な「航空物流システム」として理解・把握する

戦略・アクションプラン

平成20年度
の具体化を
目指す